

令和元年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会 富山県予選会 戦評

2019年 11月10日(日)		会場：富山県西部体育センター													
男子 試合No. 特2		決勝戦													
勝チーム 富山工業	68	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>13</td><td>-</td><td>9</td></tr> <tr><td>16</td><td>-</td><td>13</td></tr> <tr><td>17</td><td>-</td><td>12</td></tr> <tr><td>22</td><td>-</td><td>20</td></tr> </table>	13	-	9	16	-	13	17	-	12	22	-	20	54 負チーム 高岡商業
13	-	9													
16	-	13													
17	-	12													
22	-	20													
戦 評															
<p>昨年度の新人大会から高校総体を全て制し3年ぶりの優勝を狙う富山工業と、2年連続で決勝までコマを進め5年ぶりの優勝を狙う高岡商業との対戦となった決勝戦。第1Qは、富山工業・高岡商業どちらもマンツーマンDFで始まる。当たりも厳しく互いにファールが多くなる。厳しいDFで両チームとも攻め切れない。しかし富山工業⑦を中心としたミドル、レイアップなどの早い展開での攻撃を仕掛ける。一方、高岡商業は④のペネトレイトからシュートやアウトサイドへのパスにより⑦・⑧のゴール下での得点を重ね追いつがる。</p> <p>2Q、富山工業⑦が3Pとゴール下の得点を連続で決める。高岡商業がT0をとり流れを断つ。攻め切れずにいたが、パスカットや相手のミスもあり、インサイドによる攻めが功を奏し、22-22の同点に追いついた。その直後富山工業がたまたまT0をとる。2Q終盤、得点できない富山工業であったが、⑭の3Pから一気に流れを戻し、早い展開で得点を重ね、前半29-22で折り返す。第3Q開始両チームともミスやシュートがゴールに嫌われ、流れを掴むことができず、序盤は点数が入らない。しかし、残り6分あたりから富山工業は⑥・⑦・⑭が果敢にゴールまで攻め、得点を重ねる。一方、高岡商業は、⑤を中心にミドルシュートやリバウンドからのシュート、相手からのファールによるフリースローも随所に決め、46-34で最終Qへ。最終Qは互いに強気な攻めを見せて得点を重ね、一時高岡商業は8点差まで詰め寄る。しかし、残り6分を過ぎたところ、またもや富山工業⑦の3Pやドライブが連続で決まり、最大15点差まで差を広げた。その差を最後まで保ったまま、ゲーム終了。富山工業が3年ぶり2回目のウインターカップ出場を決めた。</p>															
記録者： 中村 和貴		所 属：富山県高体連専門部													
主 審： 竹田 雄介		副 審： 濱住 知明													
副 審： 山田 隆介															